

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

APRIL
2026

4

昭和医科大学新聞 通巻第630号
(偶数月発行)

定年退職者(教授)特別寄稿

学生からの寄稿「富士吉田の思い出」



定年退職者（教授）特別寄稿



医学部 泌尿器科学講座
[藤が丘病院]

佐々木 春明

昭和医科大学への感謝

1986年に医師として新たな人生をスタートしました。今は医師の働き方改革で労働時間に制限がありますが、当時は日勤・当直・日勤や、緊急手術の術者になりたいために時間外にも関わらず病院（医局）で待機するといった働き方が当たり前でした。隔世の感があります。しかしながら、当時の経験、特に手術に関する経験（定期手術はもちろんのこと、緊急手術も含めて）はとても貴重な勉強になりました。これが私の基礎になりました。当時、指導していただいた先生方、看護師の皆様、医療スタッフの皆様にご感謝申し上げます。39年間、お世話になった昭和医科大学の発展を祈念しております。



医学部 脳神経外科講座
[江東豊洲病院]

池田 尚人

超急性期診療と外科治療を追求した40年

定年を迎えるにあたり、ご指導いただきましたスタッフ、諸先輩、同僚および後輩の皆様には感謝の言葉しかありません。さらに病院内外で支えていただいた関係者に対しても感謝しつつも足りません。振り返れば、超急性期診療（脳卒中・等）において外科にこだわりつつも外科・内科、急性期・リハビリテーション、さらには病院前・病院間との垣根を最小限にする取り組みに深く関わった医師人生でありました。この間、「教育・学習の尊さ」を心に刻みました。また、横浜市北部病院と江東豊洲病院の立ち上げに関わったことは貴重な経験でありました。今後は、このような経験・思想を基に歳を重ねる所存であります。皆様、ありがとうございました!!



医学部 泌尿器科学講座
[昭和医科大学病院]

深貝 隆志

新技術導入に歩んだ日々

1986年に昭和大学医学部を卒業後、泌尿器科に入局し、前立腺癌の臨床研究で学位を取得しました。1997年にハワイ大学へ留学し、病理研究や日系人の前立腺癌研究に従事。帰国後は小線源治療・IMRT、腹腔鏡手術の導入に取り組み、2013年には昭和大学病院でロボット支援手術を立ち上げました。2014年から江東豊洲病院の開院に参画し副院長も経験。2021年に旗の台へ戻り体制整備に努め、2026年3月に定年を迎えます。新しい知識と技術の導入に奮闘した、あつという間の40年間でした。支えてくださった皆様に深謝し、今後も特任教授として微力ながら昭和医科大学に貢献してまいりたいと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



医学部 麻酔科学講座
[横浜市北部病院]

信太 賢治

「ONE TEAM」の精神を胸に：定年退職のご挨拶

私が麻酔科学の道に進み、約40年の歳月が流れました。この間、麻酔科医として、そして一教員として、多くの患者様や学生、同僚の皆様と出会い、多くの貴重な経験を積みさせていただきました。2019年から昭和医科大学横浜市北部病院の麻酔科診療科長として着任し、「ONE TEAM」をスローガンに掲げて、科の運営と臨床、教育、研究に取り組んできました。麻酔科は手術という極限の現場を支える要であり、その責任の重さを常に感じながらも、チーム全員が互いに支え合い、困難な症例に立ち向かう姿勢に、私自身も日々刺激を受けてきました。定年退職にあたり、皆様のご指導とご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。



医学部 内科学講座
循環器内科学部門 [江東豊洲病院]

丹野 郁

感謝の言葉

桜の季節を迎え、この3月末をもちまして定年退職を迎えることとなりました。1988年の入職以来、37年間という長きにわたり昭和大学の一員として過ごせたことに深く感謝しております。専門の循環器内科、とりわけ不整脈診療においては、常に積極的な治療介入を信念とし、多くの患者様と共に病と向き合ってきました。至らぬ点もあったかと存じますが、優秀な同僚や熱意あるスタッフ、そして患者様に支えられ、完走できましたことを誇りに思います。昭和医科大学の更なる飛躍を祈念いたしますとともに、皆様の長年にわたる温かいご支援に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



医学部 内科学講座
消化器内科学部門 [昭和医科大学病院]

吉田 仁

消化器内科・膵胆道学と愛ある医療

1986年昭和大学を卒業し、八田教授に内科診療、膵臓の研究を学び学位を取得しました。三田村教授に消化器内科を学び、東京労災病院で吉田部長に指導いただき、ミシガン大学留学の際はProf. Owyang、角田先生に師事しました。臨床の疑問を研究で紐解くことが本部門のlifework。膵再生、膵外分泌シグナル伝達、AIPの病態と薬物療法研究を通じ、新知見を得、膵炎、膵癌、胆道癌、IgG4関連疾患など多くの消化器病や指定難病を探究できるのは皆様のお蔭です。大学院生の指導も叡智の習得に繋がり、愛ある教育・診療・研究を本学の倫理観のもと大切にしています。先輩、同僚の皆様にご心より感謝申し上げます。今後とも宜しく願いいたします。

4

APRIL
2026

目次

2 Special Feature 定年退職者（教授）特別寄稿

佐々木 春明教授 池田 尚人教授 深貝 隆志教授
信太 賢治教授 丹野 郁教授 吉田 仁教授
富士 幸藏教授 長坂 昌一郎教授 笠井 史人教授
長谷川 篤司教授 沼澤 聡教授 柴沼 質子教授
板部 洋之教授 倉田 知光教授 萩原 康夫教授
中村 明央教授 田中 大介教授

7 Press Release
鷺沼キャンパス整備事業が「第4回ABINC賞 特別賞」受賞
緑地保全と資源循環への取り組みが高く評価される
ミトコンドリアゲノム解析が示す“隠れた種多様性”
小笠原のリュウヒモムシの分類学的位置付けを再評価
学校法人昭和医科大学と学校法人昭和女子大学が
包括連携協定を締結
腸内細菌由来RNAと機械刺激受容体Piezo 1による
新しい大腸がん抑制メカニズムを発見

9 News & Topics
旗の台一丁目町会餅つき大会 実験動物慰霊祭
リカレントカレッジ特別企画（冬） 各賞受賞者
富士吉田キャンパス新実習棟（2号館）竣工式ほか

22 Student Life
学生寄稿
「私たちが富士吉田で学んだこと、感じたこと」

24 Database
令和8年度入学試験
一般選抜入試（I期）・
大学入学共通テスト利用入試結果
看護専門学校入学試験結果

25 Meeting Report (学内会議報告)

26 Information



医学部 泌尿器科学講座
[横浜市北部病院]
富士 幸藏

～泌尿器科医としての39年間～

昭和62年に昭和大学を卒業し泌尿器科学教室に入局して39年が過ぎ、この度、定年を迎えることとなりました。ひとえに良き先輩や後輩、そして多くの関係諸氏のご助力の賜物と深く感謝しております。私は排尿機能に興味を持ち泌尿器科医となりました。当時は前立腺肥大症の手術が開腹手術から経尿道的内視鏡手術に移行した時期で、尿閉の患者が内視鏡手術で排尿できるようになり喜んで退院される姿を見て外科的治療の力を痛感しました。以降、泌尿器手術習得に精進してきました。手術技術は新しい医療機器や材料の開発とともに進歩しておりますが、今までの経験を活かし今後も微力ながら次世代の泌尿器科医育成のお手伝いをさせていただき所存です。



医学部 内科学講座
糖尿病・代謝・内分泌内科学部門 [藤が丘病院]
長坂 昌一郎

藤が丘病院での10年間を振り返って

私は1985年自治医科大学を卒業後、僻地医療（離島勤務）、自治医科大学の大学院生・教職を経て、2015年7月に藤が丘病院糖尿病・代謝・内分泌内科医長として採用していただきました。その後診療科名は変遷し、また役職も医長から診療科長、現在では診療責任者として、医局員と診療・研究・教育に携わってきました。特に若手の先生と一緒に、学会発表、論文作成、学位取得の指導を行ってきたことは、私にとって大きな喜びであり、また学びもありました。10年間と短い期間でしたが、昭和医科大学で教職を全うできたのは、多くの病院関係者、講座主任の平野勉名誉教授、山岸昌一教授のご指導によるものと感謝しております。ありがとうございました。



医学部 リハビリテーション医学講座
[昭和医科大学病院]
笠井 史人

「特殊」で「普遍的」なりハビリテーション医学と歩んだ35年間

1990年医師免許取得とともにリハビリテーション医学の世界に飛び込みました。当時本学にはリハビリ科は存在しませんでしたし、全国的にも講座は数えるほど、かなり「特殊」な分野と言えました。しかしリハビリ自体は世界中どの病院でも行われており、「普遍的」でもありました。ニーズは高いのに専門医師が稀有というアンバランスに惹かれ、先進の他大学の門戸を叩くことはせず、科の存在しなかった母校でその医療の発展に取り組みたいと考えました。この35年間に診療科独立、講座昇格、保健医療学部開講など、昭和医科大学のリハビリ医療と歩んでまいりました。その発展にもう少しお手伝いさせていただきたいと思っております。



歯学部 歯科保存学講座
総合診療歯科学部門 [歯科病院]
長谷川 篤司

研究は競合、教育は協合でした

1984年の入職以来、41年間にわたり歯学部にて研鑽を積んでまいりました。前半は保存修復学教室にて保存治療と歯科用接着材料の研究に邁進し、学外との競合を通じて研究の厳しさを身をもって学びました。その後、歯科医師臨床研修制度の必修化に伴って総合診療歯科学教室へ転向し、後半は研修歯科医とともに「患者中心の医療」を模索、実践しつつ、歯学部の教育改革にも携わりました。この時に教育職員だけでなく、事務職員の方々と密に協合して取り組んだ経験は、私にとって大きな財産となりました。最後に41年間にわたり私を涵養していただいた昭和医科大学のすべての職員の皆様に深く感謝し、御礼の言葉とさせていただきます。



薬学部 基礎医療薬学講座
毒物学部門
沼澤 聡

社会貢献と情報発信

昭和医科大学には学生として6年、教員として41年の大変長い間お世話になり、この度、無事定年を迎えることとなりました。この間ご指導を賜った皆さま、部門を支えていただいた教員や学生諸君、そして学事部をはじめ関連のすべての方々へ深く御礼申し上げます。当毒物学部門は、黒岩幸雄・吉田武美 両名誉教授によりわが国唯一の毒物学講座として毒性情報の発信が成されてきました。私もそれに続き、公判や警察捜査などに一定の貢献を行い、本学の名誉を高めることができたものと、少しばかりの自負を持って退職できることは大変有難いと思っております。今後も昭和医科大学から社会貢献が成され、益々発展されることを心より祈念申し上げます。



薬学部 基礎薬学講座
腫瘍細胞生物学部門
柴沼 質子

昭和医科大学薬学部のさらなる発展を祈念して

平成4年に助手として採用いただいて以来、今日に至るまで、本学には永きに亘り活動の場を賜り、厚く御礼申し上げます。特に平成21年に新設された腫瘍細胞生物学部門では、がん薬物療法を担う薬剤師養成のため「がんの病理や各種抗悪性腫瘍薬の作用機序を理解し実践するための基盤教育・研究」に取り組みました。薬学教育が6年制へと移行し、臨床薬剤師の育成が主たる使命となるなか、その実践的能力の土台となる学問的基盤は、以前にもましてその重要性を増しています。十分な貢献ができず忸怩たる思いもありますが、あとは後進の皆様へ託したいと思います。これまでのご指導ご鞭撻に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



薬学部 基礎薬学講座
生物化学部門
板部 洋之

教育と研究の両立を目指して

2004年に着任し、2006年に薬学6年制が始まりましたので、私も新しい薬学教育を昭和医科大学で学びつつ、教育と研究の両立をいつも考えました。低学年の講義では基礎知識を確実に修得することが望まれますが、知識の詰め込みにならないように、なぜこうなのかという説明を重視しました。国際交流活動では、本学薬学部と学部間協定校との交換留学を選択科目として定着させることが出来ました。挑戦したい学生の選択肢があることは大変励みになると思います。研究では、医学部、歯学部との共同研究を多数行うことができ、医系総合大学の強みを活かしました。これまで共に活動して下さった教員、職員、大学院生、学生の皆様に心から感謝申し上げます。



富士吉田教育部
倉田 知光

「至誠一貫」の精神と共に歩んだ47年間

昭和大学薬学部に1979年に入学して47年、その間、医学部第二薬理学教室、富士吉田教育部に勤務し、医学教育およびチーム医療教育に携わってまいりました。富士吉田教育部では初年次全寮制教育の中で、「至誠一貫」の精神を体現できる医療人の育成に関わらせていただいたことは、私にとって大きな誇りであり、何よりの喜びでございます。この間、18年間にわたり富士吉田教育部教育推進室長を、また6年間にわたり富士吉田教育部長を拝命し、皆様のお力添えのもと、全力で職務に邁進してまいりました。長年にわたり温かいご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げますとともに、昭和医科大学のさらなる発展を心より祈り申し上げます。



富士吉田教育部
萩原 康夫

富士吉田キャンパスのこれからを期待して

このたび定年を無事に迎えることができました。ひとえに富士吉田教育部の教育活動について支援いただいた教員の皆様ならびに職員の皆様、そして富士吉田で生活をした学生諸氏のおかげです。心より感謝申し上げます。昭和医科大学は様々な面で改革が進んでいます。その中で変わらぬものがあります。その一つに富士吉田キャンパスの立ち位置「チーム医療を担う昭和医大マインドの構築」です。富士吉田の1年間が学生にはとても重要な期間であると思っています。その期間に学生と携わることができたのは私にとっても貴重な時間となりました。最後になりますが、昭和医科大学の益々の発展を富士山麓より祈念して筆を置きたいと思えます。



総合情報管理センター
中村 明央

本当にお世話になりました。感謝です

昭和大学医学部には二十歳で入学し、親子三代にわたりお世話になりました。学生時代はアイスホッケーに明け暮れ、大学院ではTail-flick testでマウスと格闘していました。外科に入学し、24時間365日病院と患者さんを最優先に働きました。2002年に横浜市北部病院で研修医の入局がなければ解散する覚悟で外科医局を立ち上げ、二人が入局し、教授と「辞められないね」と嬉しく乾杯しました。2013年から豊洲病院の電子カルテ化に携わり、外科教授に就任、2017年に総合情報管理センターへ異動、2021年にはセンター長に就任しました。多くの人とのお会いに支えられ、昭和医科大学に育てられたことに感謝しています。



保健管理センター
田中 大介

今、私は「感謝」の気持ちでいっぱいです！

1984年に富士吉田キャンパスで生涯の仲間と出会い、学生時代はラグビー部(ラグビー部&グリークラブ)で青春を謳歌しました。卒後は奥山和男教授の小児科学教室で新生児医療を学び、飯倉洋治教授には医局長として鍛えられ、その後、附属豊洲病院、保健医療学部を経て、現在は起立性調節障害を専門に診療・研究し、2019年に保健管理センターの所長となり学生・職員の健康管理に従事しています。この40年余り、多くの先達にご指導賜り、多くの仲間と出会い、多くのかわいい後輩に恵まれたことは本当に幸せで「感謝」の一言に尽きます。創立90周年での「第九」演奏、コロナ渦で職種・施設を問わず全職員が見事に丸となったことも忘れられません。私を育ててくれた昭和医科大学に感謝し(妻にも)、4月からは特任教授として恩返しする所存です。皆様のご多幸と本学のさらなる発展を心より祈念しております。



Press Release

※掲載内容はリリース時の内容となります。なお、2025年12月号から誌面では省略版の掲載に変更しており、全文はQRコードからご案内しているWEBページにてご覧いただけます。

昭和医科大学では最新の研究結果等を外部(マスメディア)に発信しています。ここでは、プレスリリースとして発信した記事を紹介します。

鷺沼キャンパスが「第4回ABINC賞 特別賞」受賞 緑地保全と資源循環への取り組みが高く評価される



昭和医科大学が整備を進める鷺沼キャンパス(神奈川県川崎市)が、一般社団法人いきもの共生事業推進協議会(ABINC)主催の「第4回ABINC賞」において特別賞を受賞した。本キャンパスは、市街地における緑地保全への寄与、資源循環への配慮、学内連携による管理・環境活動など教育機関ならではの取り組みが高く評価されたものである。鷺沼キャンパスは2027年4月に開設予定であり、医学部・歯学部・薬学部の2・3年次および一部4年次、保健医療学部の2~4年次、助産学専攻科の学生約2,000人が学ぶ拠点となる。ABINC賞は、生物多様性保全に取り組む「いきもの共生事業所®」の中から、特に優れた事例を表彰する制度であり、鷺沼キャンパスは2025年3月にABINC認証を取得している。本認証は、自然環境に配慮したランドスケープ整備、持続可能な緑地管理、モニタリング、地域連携など幅広い基準に適合した施設に付与されるものである。今回の受賞は、都市部における生物多様性保全と教育活動の融合を示す先進的事例として、持続可能なキャンパスづくりのモデルとなるものである。



鷺沼キャンパス計画イメージ

リリース時タイトル / 【昭和医科大学】鷺沼キャンパスが「第4回ABINC賞 特別賞」を受賞 - 市街地の緑地保全や資源循環、学内連携の環境活動が高く評価

本件に関する問い合わせ先 / 学校法人 昭和医科大学 鷺沼キャンパス準備室事務課 E-mail: saginuma@ofc.showa-u.ac.jp

ミトコンドリアゲノム解析が示す“隠れた種多様性” 小笠原のリクヒモムシの分類学的位置付けを再評価



昭和医科大学の蛭田眞平准教授と海洋研究開発機構の波々伯部夏美研究員らの研究グループは、日本国内に分布する陸生の紐形動物であるリクヒモムシ属について、ミトコンドリアゲノム解析と形態比較に基づく分類学的再検討を行い、種レベルで異なる二つの系統が存在することを明らかにした。解析の結果、小笠原諸島に分布する系統は、日本各地や太平洋・大西洋の熱帯・亜熱帯域、与那国島に広く分布する系統とは、ミトコンドリアゲノムサイズや遺伝子配置、遺伝的距離において顕著に異なっていた。特に、広域分布系統のゲノムサイズは小笠原系統の約2倍に達し、COX1遺伝子の遺伝的差異も同種内変異の範囲を超えていた。加えて、体色や背中の縦筋模様、吻内部の副針囊数などの形態的特徴も2系統を明瞭に区別した。さらに、1980年代に小笠原諸島で採集され博物館に収蔵されていた標本の再検討により、小笠原系統が過去から継続して同地域に分布していた可能性が示された。本研究は、島嶼生態系における生物多様性の正確な把握と保全のためには、小型無脊椎動物においてもDNA情報と標本資料に基づく種同定と長期的モニタリングが不可欠であることを示す重要な成果である。



国内に分布するリクヒモムシ属(Geonemertes属)

リリース時タイトル / 【昭和医科大学】ミトコンドリアゲノム解析で発見された“隠れた種多様性” - 小笠原諸島のリクヒモムシ、広域分布種とは異なる系統を確認

本件に関する問い合わせ先 / 昭和医科大学 富士山麓自然・生物研究所 准教授 蛭田 眞平 E-mail: hiruta@cas.showa-u.ac.jp

昭和女子大学と包括連携協定を締結 両大学の専門領域を活かした教育及び研究の発展へ向け



学校法人昭和医科大学（理事長：小口勝司／東京都品川区）は令和7年12月19日、学校法人昭和女子大学（理事長：山崎日出男／東京都世田谷区）と包括連携協定を締結した。

本協定により、両法人は相互の交流と協力を促進し、教育および研究の連携を通じて、医療、福祉、キャリアデザイン、地域貢献、文化交流等の分野における教育および研究の充実と発展を目指していく。

12月19日には学校法人昭和女子大学で調印式が執り行われ、学校法人昭和医科大学の小口勝司理事長、学校法人昭和女子大学の山崎日出男理事長が協定書に署名を行った。



学校法人昭和女子大学の山崎日出男理事長（左）と学校法人昭和医科大学の小口勝司理事長（右）

リリース時タイトル／学校法人昭和医科大学と学校法人昭和女子大学が包括連携協定を締結

本件に関する問い合わせ先／学校法人 昭和医科大学 総務部 企画課 TEL：03-3784-8387 E-mail：kikaku@ofc.showa-u.ac.jp

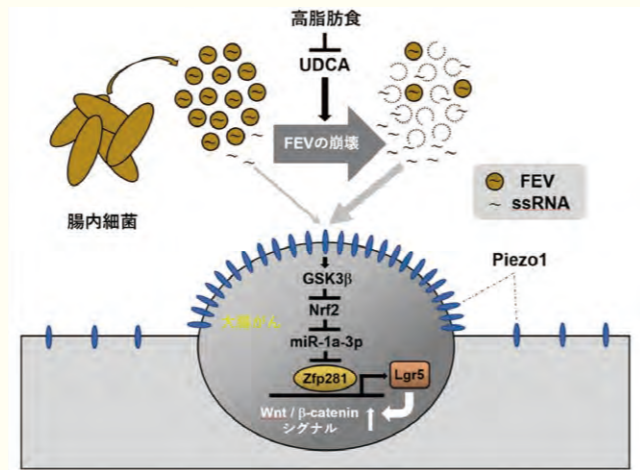
■連携内容

- (1) 学術交流及び共同研究の推進
- (2) 両法人の専門分野・領域を活かした支援の協力
- (3) 教職員、研究者、学生等の相互交流
- (4) 施設の相互利用
- (5) 社会及び地域への貢献
- (6) その他、本協定の目的の範囲内において、必要と認める事項

腸内細菌由来RNAと機械刺激受容体Piezo 1による 新しい大腸がん抑制メカニズムを発見



昭和医科大学の高山靖規講師らの研究グループは、大腸がん細胞に発現する機械刺激受容体Piezo 1（ピエゾワン）が腸内細菌由来のRNAによって活性化すると、大腸がんの増殖が抑制される新たな分子機構を明らかにした。本研究は、2025年12月17日に国際学術誌「Cell Reports」に掲載された。本研究では、糞便中RNAの多くが腸内細菌由来の細胞外小胞（FEVs）に含まれる一本鎖RNAであることを示し、これが腸上皮のPiezo 1を活性化することを確認した。さらに、FEVs膜崩壊は胆汁酸の一種であるUDCA（ウルソデオキシコール酸）により起こることが明らかとなった。高脂肪食マウスではUDCAが減少し腫瘍数が増加したが、UDCA投与により腫瘍増加が抑制された。腸上皮特異的Piezo 1欠損マウスでは腫瘍形成が顕著に促進され、ヒト大腸がんにおいてもPiezo 1低発現が予後不良と関連した。分子機構の解析から、Piezo 1活性化はmiR-1a-3pを介して転写因子Zfp281を抑制し、Lgr5およびWntシグナルを低下させることが示された。本研究は、腸内核酸環境と機械刺激受容体の連関という新たな概念を提示し、Piezo 1を標的とした大腸がんの予防・治療戦略への応用可能性を示す成果である。



腸内細菌由来のRNAと機械刺激受容体Piezo 1による大腸がん抑制機構

リリース時タイトル／昭和医科大学などの研究グループが、腸内細菌由来RNAと機械刺激受容体Piezo 1による新しい大腸がん抑制メカニズムを発見

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学 大学院医学研究科 生体制御学分野 講師 高山 靖規 TEL：03-3784-8110 E-mail：ytakayama@med.showa-u.ac.jp

News & Topics

2025.12.14

地域・一般

町会の餅つき大会に参加 学生も杵を振るい、出来立ての餅に舌つづみ

12月14日、旗の台一丁目町会主催の「旗一忘年・防災 餅つき大会」に、本学の学生および職員が参加した。

当日は、臼と杵を用いて蒸したもち米をつき、餅を作る工程から行われた。参加者は掛け声を交わしながら協力し、餅つきに取り組んだ。

完成した餅は、きな粉やあんこ、大根おろしなどで味付けを行い、販売した。

雨天での開催となったが、町会関係者をはじめ地域住民の皆さまと交流する機会となり、地域とのつながりを深める有意義な行事となった。



参加した学生たち

2025.12.19

式典・行事

実験動物慰霊祭 御霊に感謝と哀悼の意を捧げる

12月19日、池上本門寺本殿（東京都大田区）にて実験動物慰霊祭を執り行った。

本慰霊祭は、本学の教育・研究に資するため尊い命を捧げた動物に対して、感謝と哀悼の意を表す儀式である。

当日は、動物実験に関わる各学部の教育職員や学生、約60名が参列し、御霊のご冥福を祈った。



焼香の様子

2025.12.19/2026.1.14

薬学部 保健医療学部 式典・行事

白衣授与式を挙行 臨床実習に臨む学生を激励

12月19日・1月14日、薬学部および保健医療学部で「白衣授与式」を執り行った。

同式は、臨床実習を控えた学生たちを対象に、医療人を目指す者としての自覚を促し、心構えを新たにすることを目的に毎年実施している行事である。

保健医療学部（12月19日） 第2学年155名に対し、教育職員から一人ひとりに白衣が授与された。

鈴木久義保健医療学部長は告辞で、「臨床実習は、教科書では得られない学びを得ることができる大変有益なものです。実習に真摯に取り組み、将来『至誠一貫』を体現できる看護師、保健師、理学療法士、作業療法士へとなることを期待しております」と述べた。

真新しい白衣を身につけた学生たちは、本学附属病院をはじめとする各施設で実習に取り組み、チーム医療の現場における看護師・理学療法士・作業療法士それぞれの役割を学んでいく。

薬学部（1月14日） 第4学年165名に対し、教授から一人ひとりに白衣が授与された。

原俊太郎薬学部長は告辞で、「緊張感と責任感をもって白衣を身にまとい、『至誠一貫』の精神を忘れずに、積極性をもって実習に取り組んでください」と激励した。

上條由美学長は祝辞で、「仲間と支えあいながら、白衣に込められた意味を常に心に留めて、未来の医療を担う薬剤師として確かな歩みを進めてください」と述べた。

真新しい白衣に袖を通した学生たちは、本学附属病院や薬局等における臨床実習課程で研鑽を重ねていく。



代表者による昭和医科大学宣言(薬学部白衣授与式)

至誠一貫の実現へ、良き導き手の養成を目指す 実習指導者講習会の修了式を挙行

12月22日、横浜キャンパスにて神奈川県保健師助産師看護師実習指導者講習会・昭和医科大学保健師助産師看護師実習指導者講習会の合同修了式を執り行った。

本講習会は効果的で質の高い実習指導を行う指導者を養成し、看護基礎教育の質の向上を図ることを目的として開講している。

はじめに、鈴木久義保健医療学部長から55名の受講生一人ひとりに修了証が授与され、閉講の挨拶があった。

続いて、田中晶子教授（保健医療学部看護学科主任）が挨拶し、城所扶美子統括看護部長が来賓祝辞として「知識は使ってこ

そ価値があります。講習会で得た知識・技術を現場で活かし、未来の看護職育成に尽力されることを願います」と今後の活躍に期待を寄せた。

最後に、修了生代表の松本美穂さん（かわさき記念病院）が「指導者としての責務と看護教育の意義を再確認し、支えてくださった全ての方々への深い感謝を表します」と謝辞を述べ、閉式となった。



修了証授与

富士吉田教育部 1年次集中講義 多彩な体験を通じて学びを深める

富士吉田教育部では、1年次教育の一環として、体験を通じて学びを深める集中講義を実施している。

2025年度は、スポーツや芸術、歴史といった多彩な分野をテーマに、学外施設や他大学と連携した特色ある科目が様々展開した。

いずれの科目も、実体験を重視した内容で、学生たちは仲間と協力しながら主体的に学びを深めた。こうした集中講義は、専門分野への理解を深めるとともに、大学生活の充実にもつながる貴重な機会となっている。

講義名	期間	場所
1 健康とスポーツの科学(ゴルフ)	2025年7月27日～29日	ダイナミックゴルフ茂原(千葉県)
2 感性を掘り下げる色彩と造形	2025年8月4日～7日	多摩美術大学(東京都)
3 健康とスポーツの科学(乗馬)	2025年9月13日～15日	富士吉田キャンパス 馬場(山梨県)
4 健康とスポーツの科学(スケート)	2025年12月6日～7日	富士急ハイランドスケートリンク(山梨県)
5 歴史遺産への招待	2026年1月27日～30日	京都橋大学(京都府)



上條記念館にてジャズライブを開催

1月17日、昭和医科大学リカレントカレッジ特別企画(冬)「DO JAZZ LIVE! ～人生に学びと音楽を～」を上條記念館にて開催した。

当日は550名を超える方にご参加いただき、ジャズ・シンガーの綾戸智恵氏による弾き語りや軽快なトークにより、会場は大いに盛り上がった。

参加者からは、「綾戸智恵さんのバイタリティ、歌唱力に“力”を受け、今後の人生を一生懸命生きたいと思いました」「歌はもち

ろん素敵でしたが、非日常の時間と場所の中で心が楽しくなり、元気をもらいました」といった好評の声が寄せられた。

今後も、昭和医科大学リカレントカレッジでは、社会人の「知の探究」の一助となる文化の発信拠点として、様々な講座の開講やイベントの開催に取り組んでいく。



綾戸智恵氏

全米医学アカデミーにて Catalyst Awardを受賞 高齢化社会の課題解決に向けた研究で

金山朱里教授（細胞外マトリックス研究所）が、全米医学アカデミー（National Academy of Medicine : NAM）のカタリスト・アワード（Catalyst Award）を受賞した。全米医学アカデミーが主導する健康長寿に向けた問題解決Healthy Longevity Global Competition (NAM-HLGC) は、世界各国で進行する高齢化社会の課題を解決すべく、健康長寿の延伸に資するよいアイデアを世界各国から募り、その中から優れたものを選抜して段階的に大きな支援を行うことにより世界的なイノベーションの促進を目指

【金山朱里教授のコメント】

NAM-HLGC Catalyst Awardを賜り、大変光栄に存じます。日々熱意を持って研究に取り組んでくれている研究所メンバー、共同研究者の先生方、そしてこれまで多大なご指導を賜りました先生方に、心より感謝申し上げます。本賞を励みに、研究成果の実用化に向けた取り組みをさらに進めてまいります。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



すプログラムである。Catalyst Awardはこの取り組みの一環として授けられる賞で、金山教授は「Novel Molecular Targeted Nucleic Acid Therapy for Liver Fibrosis」のプロジェクトが評価され、同賞に選定された。

[関連リンク/Healthy Longevity Global Grand Challenger](https://healthylongevitychallenge.org/) (全米医学アカデミーが世界から健康寿命のアイデアを募る大規模コンペティション) <https://healthylongevitychallenge.org/CatalystAwardWinners> (受賞プロジェクトの詳細) <https://healthylongevitychallenge.org/winners/novel-molecular-targeted-nucleic-acid-therapy-for-liver-fibrosis/>

認定看護管理者教育課程(サードレベル) 今年度は33名が全課程を修了

1月24日、2025年度認定看護管理者教育課程サードレベルの修了式を上條記念館にて挙行了した。

今年度は33名が全課程を修了し、出席者32名に増田千鶴子看護キャリア開発・研究センター長から修了証が授与された。

増田センター長は挨拶で「学んだことを実践し成果を得ていくことで、優れた看護管理者となることを期待しております」と述べた。

研修生代表は挨拶で「講義で得た学びと共に歩んだ仲間との絆を大切に、それぞれの施設で求められる医療・看護を持続可能な形で提供できるよう、看護管理者として日々学び行動していきます」と述べ、決意を新たにした。



記念撮影

学修環境のさらなる充実を祝い 富士吉田の新実習棟竣工式を挙行

1月30日、富士吉田キャンパスにおいて、新実習棟の竣工式を挙行了した。当日は、定礎除幕式、神事、内覧会が執り行われ、関係者が完成を祝った。

この日、竣工した新実習棟は、3Dバーチャル解剖台「アナトマージテーブル」を国内最大規模である20台導入した形態機能実習室をはじめ、ベッドサイドでのより実践的な学修が可能な基礎

看護実習室などを整備した地上3階建ての建物である。4月1日より運用開始予定。

今後も「初年次全寮制教育」を担う富士吉田キャンパスにおいて、施設・設備の更新を進め、学修環境および生活環境のさらなる充実を図っていく。



内覧会の様子

日本地域医療学会学術集会 優秀賞

演題名 「ラマン分光法を応用した簡便かつ高精度の低侵襲スクリーニング法の開発」

受賞者 伊藤寛晃准教授 (先端がん治療研究所)

日程: 2025年10月11日～12日:新潟市、朱鷺メッセ新潟
場所 コンベンションセンター



伊藤寛晃准教授

日本歯科理工学会 関東地方会セミナー 研究奨励賞

演題名 「矯正歯科治療に用いる熱可塑性シートの粘弾性試験」

受賞者 田村修一さん (歯学研究科歯科矯正学分野2年)

日程: 2025年11月8日:東京都 エッサム神田グリーンホ
場所 ル



左から、柴田陽教授、田村修一さん、荻野(田中)玲奈准教授

2025.11.2~3

eスポーツでフレイル予防！ 「Colors, Future! Summit 2025」にて語る

11月2日・3日、「Colors,Future! Summit 2025」が、川崎市内の複数会場にて開催された。

本学も協賛する「Colors,Future! Summit 2025」は、川崎市および民間企業5社で構成される委員会により、2024年の川崎市市制100周年を契機に立ち上げられた「まち」と「社会」の未来を共に考え、広げていく、産・官・学・民が共創するプロジェクト。

本学からは、来住野麻美講師(保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)が、3日の川崎駅前の川崎ルフロ1階イベントスペースに登壇し、「eスポーツがつなぐ“元気な未来”～フレイル予防の新しい形～」と題して、登壇者の皆さまと一緒にトークセッションを行った。

本セッションでは、年齢や性別、障がいの有無を問わず誰でも楽しめる新しいスポーツとして認知されている「eスポーツ」の特

性を活かし、フレイル(加齢に伴う心身の虚弱)予防のツールとしての可能性を探った。

来住野講師は、高齢期の健康づくりにeスポーツを活用する可能性について、認知機能・社会参加・身体活動の3つの側面からわかりやすく紹介した。

会場には多くの来場者が集まり、専門家とのディスカッションを通じて「ゲームが健康を支える未来」について熱心に耳を傾ける姿が見られた。

昭和医科大学は、今後も地域とともに、健康で活力ある社会づくりに貢献していく。



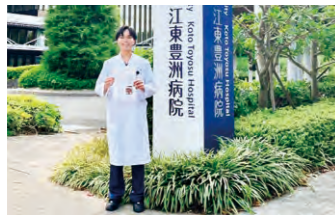
来住野 麻美 講師 (写真中央)

日本病院総合診療医学会雑誌に 臨床画報を掲載

タイトル 「重症心身障害者にみられた爪の白色変化」

掲載誌 日本病院総合診療医学会雑誌 (2025年21巻5号 p.189-190)

著者 大口裕人(当時:医学部5年)、中神智和、本多昌平、阿部祥英、吉澤 穰治(江東豊洲病院こどもセンター)



大口裕人さん

「いい唾液の日」記念表彰式 唾液関連歯科医療推進者表彰受賞

受賞者 城生麻里講師(歯科衛生士・保健医療学部保健医療学教育学)

日程: 2025年11月22日:ローズホテル横浜
場所



左から、槻木恵一理事長、城生麻里講師

2025.10.22

湘南白百合学園中学・高等学校にて 田中大介教授が出張講演を実施

10月22日、田中大介教授(保健管理センター所長)が、本学の包括連携協定校である湘南白百合学園中学・高等学校にて保護者を対象に「思春期のメンタルケアについて—子どものこころの成長発達と家庭・学校における留意点—」と題して講演を行い、保護者22名が参加した。

講演会では、思春期の子どもの精神面での発達や、それに伴って起こりうる疾患なども含め、多様な事例を紹介し、参加した保

護者の方々は熱心に聞き入っていた。

この講演会は、2025年2月21日に締結された

両校の包括連携協定に基づく高大連携強化の一環として実施された。今後も両校は、様々な相互交流を通じて、高大連携を強めていく。



当日の様子

日本臨床外科学会学術集会 Academic Contribution Award 貢献賞

受賞理由 同学術集会での発表演題数最多のため

受賞者 医学部外科学講座 消化器一般外科学部門

日程: 2025年11月20日～22日:東京都 京王プラザホテ
場所 ル



左から2番目:青木武士教授

日本歯科麻酔学会総会・学術集会 最優秀発表賞

演題名 「ヒトiPS細胞由来唾液腺細胞シートによる障害唾液腺の再生」

受賞者 松野栄莉佳さん(歯学研究科歯科麻酔科学分野4年)

日程: 2025年10月10日～12日:鹿児島県 カクイックス交
場所 流センター



左から、増田陸雄教授、松野栄莉佳さん

2025.10.30

香蘭女学校 中等科・高等科と 包括連携協定を締結

昭和医科大学は、香蘭女学校中等科・高等科(東京都品川区)と包括連携協定を締結した。

10月30日、本学から鈴木久義保健医療学部長が香蘭女学校中等科・高等科を訪問し、佐藤忠博校長が協定書への署名を行い、包括連携協定が締結された。

本協定は、教育の質の向上や地域社会への貢献をはじめ、大学教育の学びの機会の提供、職員・学生・生徒の交流など、幅広い分野での協力を通じて、学生・生徒の資質・能力の向上を図ることを目的としている。

今後は、両校の連携を深めながら、実りある交流と協力を進めていく。



左から、佐藤忠博校長、鈴木久義保健医療学部長

光る手術用ガーゼの臨床応用と有用性が評価 JDDW2025で優秀演題賞を受賞

田代良彦講師(医学部外科学講座消化器一般外科学部門)が第33回日本消化器関連学会週間(JDDW2025)(10月30日～11月1日:兵庫県 神戸コンベンションセンター)で優秀演題賞を受賞した。田代講師は演題名『医工連携により実現した「光る手術用ガーゼ」の臨床応用と将来展望』を発表し、光るガーゼの開発及び実際の手術での有用性を示したことが高く評価され同賞に選定された。



左から、田代良彦講師、青木武士教授

【田代良彦講師のコメント】

この度は、このような名誉ある賞を頂戴し大変光栄に存じます。昭和医科大学・東京科学大学・京都工芸繊維大学の三大学による医工学連携を通じ、肝機能検査で用いられるIndocyanine green (ICG) を染色した蛍光ガーゼを新規開発し、臨床応用を行っていることを報告して参りました。手術の低侵襲化に伴い出血量が少ない手術が可能になっておりますが、ガーゼはまだまだ手術の必需品として使われております。

一方で、低侵襲手術は視野制限があることに加えて、手の役割を果たす鉗子と呼ばれる手術機器に操作制限と触覚が欠如していることから、一旦ガーゼを見失うと発見に難渋するヒヤリハットは数多く発生し、いまだにガーゼ遺残の報告例がゼロに至っていないのが現状です。

教室では、2008年に青木武士教授(医学部外科学講座消化器一般外科学部門)が世界で初めてICGを用いて肝区域同定に成功し、それ以降、多くの領域でICG蛍光法を用いた手術を行って参

りました。現在では、内視鏡手術やロボット支援下手術においても蛍光観察機器は標準装備として搭載され、それに伴って複数の蛍光医療機器が開発、臨床応用されております。

今回開発いたしました「光るガーゼ」は、新規蛍光医療機器として将来的に蛍光ガイド手術領域の新規開拓とともに、医療安全分野であるガーゼ遺残の予防にも寄与することが可能になります。本発表は、青木教授のご指導の元、東京科学大学の安藤慎治教授(物質理工学院 応用化学系)、京都工芸繊維大学の安永秀計准教授(繊維学系)とともに遂行した研究テーマであり、手術で協力して下さった教室の先生方や手術室スタッフの方々を含めてこの場をお借りして深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

関連リンク/第33回日本消化器関連学会週間(JDDW2025) <https://www.jddw.jp/jddw2025/>

国民健康保険事業の発展を支えた功労者として 厚生労働大臣が長年の貢献を顕彰

10月27日、小川良雄名誉教授が「令和7年度国民健康保険関係功績者」として、厚生労働大臣から表彰された。この表彰は、国民健康保険事業の発展に著しく貢献した功績に対するもので、小川良雄名誉教授は、2010年に国民健康保険診療報酬特別審査委員会の委員に任命され、15年以上にわたって保健医療適正化の推進に携わってきたことが評価され、今回の受賞に至った。

【小川良雄名誉教授のコメント】

私は2010年から国民健康保険中央会において、国民健康保険診療報酬特別審査委員会の委員として、診療報酬明細書(レセプト)の泌尿器科領域における高額医療(35万点以上)の審査業務に携わってまいりました。

高度医療の進展に伴い、医療材料や薬剤の高額化が進んでお

り、国民医療費の抑制のためにも適正使用がますます重要となっております。

このたび、厚生労働大臣表彰を受け、大変光栄に存じます。今後も国民健康保険の発展に寄与できるよう努めてまいり所存です。



小川良雄名誉教授

日本医療薬学会年会で学術賞を受賞 実践と研究の往復で個別症例とビッグデータを繋ぐ

百賢二准教授(薬学部病院薬剤学講座臨床研究部門)が、第35回日本医療薬学会年会(11月22日～24日:神戸国際展示場 他)において、日本医療薬学会学術賞を受賞した。日本医療薬学会は、会員数1万4千名以上を擁する日本最大規模の薬学系学会である。本学術賞は、医療薬学分野において優れた研究業績を挙げ、その発展に寄与した研究者に授与される。今回の受賞対象となった研究主題「個と集団をつなぐ薬学的課題解決に向けたエビデンスの構築と実践」は、臨床現場の疑問を起点に、個別症例の検討から疫学研究や多施設共同研究へと発展させ、その成果を医療現場に還元するものである。患者さん一人ひとりの背景を踏まえつつ、集団レベルのエビデンスを構築する研究スタイルが高く評価され、同賞に選定された。



百賢二准教授(授賞式の様子)

【百賢二准教授のコメント】

この度は、このような賞を賜り、身に余る光栄に存じます。

これまでご指導・ご支援くださいました先生方、ならびに日々ともに臨床と研究に取り組んでくださっている統括薬剤部の皆さまに、心より御礼申し上げます。

臨床において薬剤師が患者さんの個性を踏まえ、より適切な薬物治療を提案・実践していくためには、患者さん一人ひとりの薬物療法や、不幸にも有害事象が生じた背景、患者さん側の要因などを、印象ではなく科学的に検討することが重要です。これまで私は、そのような視点から、臨床で生じた疑問を丁寧に振り返り、研究として整理し直す取り組みを続けてきました。

こうした研究の進め方は、研究活動だけでなく、将来の良き医療者の育成にも活かしています。具体的には、学部教育において薬学部5年次の「症例研究入門」を担当し、学生が患者さん

を科学的な視点から評価し、臨床での気づきを客観的に検証する基礎を身につけられるようにしています。また、統括薬剤部では、日常診療の中で生じる疑問を研究へとつなげていく臨床薬剤師の育成にも取り組んでおり、研究と臨床・教育をシームレスにつなげ、研究成果を医療に還元していくことを目指しています。

今回の受賞は、私個人の力ではなく、統括薬剤部をはじめとする多くの先生方・スタッフの皆さまのお力添えの賜物です。この場をお借りして、改めて深く感謝申し上げます。今後も、患者さんに寄り添う良き臨床家の育成と、エビデンスに基づく医療の実践に貢献できるよう、教育・研究の両面から一層精進してまいります。

関連リンク/日本医療薬学会 <https://www.jsphcs.jp/> 第35回日本医療薬学会年会 <https://convention.jtbcom.co.jp/35jsphcs/>

高校生対象の病院見学・体験会 包括連携協定校の8校48名が参加

8月5日、教育研修棟(旗の台キャンパス)、および昭和医科大学病院で、包括連携協定校の生徒を対象とした病院見学・体験会を実施し、8校の高等学校から計48名の生徒が参加した。

はじめに、本学全体の概要を紹介した後、各学部の卒業生が就くことのできる職業について説明を行い、その後、高校ごとに分かれて病院見学およびシミュレーション体験を実施した。

生徒たちは病院見学に緊張した面持ちで臨み、普段は立ち入る機会のない院内各所の説明に熱心に聞き入っていた。また、シミュレーション体験では、エピペンのシミュレータを用いたアナフィラキシーショック対応の体験に積極的な姿勢で参加していた。

今回の体験会は、本学と包括連携協定を締結している各高等

学校との高大連携を強化することを目的として実施されたものである。

今後も、さまざまな相互交流を通じて、より一層の連携を深めていく。

参加した包括連携協定校は以下のとおり。(50音順)

- ・茨城高等学校
- ・品川女子学院
- ・世田谷学園高等学校
- ・文教大学附属高等学校
- ・香蘭女学校高等科
- ・湘南白百合学園高等学校
- ・田園調布学園高等部
- ・聖園女学院高等学校



病院見学の様子

食道がんの術後合併症リスクを光で予測 JDDW2025で優秀演題賞 本年度ダブル受賞の快挙

山下剛史講師(医学部外科学講座消化器一般外科学部門・昭和医科大学病院食道がんセンター)が、第33回日本消化器関連学会週間(JDDW2025)(10月30日~11月1日:兵庫県神戸コンベンションセンター)において、優秀演題賞を受賞した。山下講師は、演題名『食道扁平上皮癌における新規周術期合併症マーカーとしての皮膚自己蛍光量測定の可能性』として、高侵襲手術の一つと言われる食道癌手術における手術侵襲予測マーカーとしての終末糖化産物(AGEs)測定の可能性について発表し、同賞に選定された。なお、山下講師は、第109回日本消化器内視鏡学会総会(2025年5月9日:札幌)において日本消化器内視鏡学会の2024年度英文誌学会賞を受賞しており、本年度2つ目の受賞となった。



山下剛史講師

【山下剛史講師のコメント】

この度は名誉ある賞を頂戴いたしました。

本発表は食道がんの新規手術侵襲マーカーとしても終末糖化産物(Advanced Glycation Endo-Products; AGEs)の可能性に関する研究発表であり、村上雅彦特任教授(医学部外科学講座消化器一般外科学部門)の発案から始まり、食道がん診療に関わる関係者のご指導、ご協力により本研究を進めることができております。また、山岸昌一教授(医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学部門)にもご指導いただいております。

今後も食道がん診療において、より患者さんへの低侵襲治療を提供できるよう、研究を進めていきたいと思います。

青木武士教授をはじめとした医学部外科学講座消化器一般外科学部門の皆様、そして本研究のみならず日頃からお世話になっているすべての方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

関連リンク/第33回日本消化器関連学会週間(JDDW2025) <https://www.jddw.jp/jddw2025/>

日本臨床薬理学会学術総会で 専門医アワードを受賞

肥田典子教授(薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門)が第46回日本臨床薬理学会学術総会(12月5日~6日:ステーションコンファレンス東京)において、日本臨床薬理学会専門医アワードを受賞した。日本臨床薬理学会は、1970年に前身の臨床薬理研究会として発足、1980年に現在の学会に発展して設立された。臨床薬理学は、科学的な「合理的薬物治療」を志向する学問領域であり、同学会では薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、個々の患者さんに最良の治療(治療の個別化)を提供できることを目指している。専門医アワードは2024年度に制定された賞で、過去5年以内に顕著な活躍をした臨床薬理専門医に授与される。肥



左から3番目: 肥田典子教授

田教授は、患者・市民参画(Public patient Involvement PPI)を基盤とした臨床薬理学教育の推進、および小児医薬品の臨床開発における研究活動が高く評価され、同賞に選定された。

スにつなげてまいりました。また、この視点を学生育成にも活かし、学部教育やワークショップで患者中心の指導を行っております。今回の受賞は皆さまのお力添えの賜物です。今後も教育・研究の両面から臨床薬理学の発展に精進してまいります。

関連リンク/一般社団法人 日本臨床薬理学会 <https://www.jscpt.jp/>
第46回日本臨床薬理学会学術総会 <https://www.congre.co.jp/jscpt2025/>

【肥田典子教授のコメント】

この度は、このような名誉ある賞を賜り、大変光栄です。これまでご指導・ご支援くださいました先生方、ならびに日々ともに研究と教育に取り組んでくださっている皆さまに、心より御礼申し上げます。

当部門では患者さんのUnmet Medical Needs解消を目標に小児医薬品開発に向けた臨床研究に取り組んできました。患者さんの声を聴くという臨床現場の課題を起点に研究活動にシームレ

手術手技研究会で指定研究賞受賞 AIによる教育システムの構築が評価

富岡幸大講師(医学部外科学講座消化器一般外科学部門)が第79回手術手技研究会(11月7日~8日:大阪府 コングレススクエア大阪中之島)において、2024年度手術手技研究会「指定研究賞」を受賞した。今回の受賞は、昭和医科大学として初となる。富岡講師は演題名『手術視覚支援人工知能(AI)を用いた外科医学教育システムの構築』を発表し、視覚支援AIを用いた新しい外科医学教育の可能性を示したことが高く評価され、同賞に選定された。



左から、青木武士教授、富岡幸大講師、田代良彦講師

【富岡幸大講師のコメント】

この度は、このような名誉ある賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。本研究は、青木武士教授(医学部外科学講座消化器一般外科学部門)のご発案により、肝臓内脈管構造をColor codingすることを目的として、手術視覚支援人工知能(AI)システム「EUREKA」を導入し、発展させてきたものであります。私どもは、この技術を基盤として、新たな外科医学教育システムの構築を見据え研究を遂行してまいりました。肝臓領域におけるAIの応用は世界初の試みであり、この挑戦的プロジェクトを、青木教授ならびに田代講師(同)と共に推進できましたことは、私にとりまして大きな誇りでございます。

腹腔鏡下手術など、触覚情報が限定される低侵襲手術においては、視覚情報がより重要となります。術中の微小解剖構造の認識は術者の知識や経験に大きく依存し、外科医間で理解に差が生じることが課題とされてきました。本AIは、術中に映し出された構造物を自動認識し、リアルタイムにColor codingすることで、言語化が難しい術野の情報を明瞭かつ的確に提示することが可能

です。術者の理解を補助するのみならず、若手外科医や医学生にとっても視覚的教材として有用であり、解剖や外科手術の理解における有意義かつ効率的な学習支援を提供し得ると考えております。このように、高水準の外科医学教育を普遍的かつ包摂的に、継続性をもって提供する取り組みは、SDGsの理念にも通じる意義深い挑戦であると考えております。

本AIによる新たな教育システムが、外科学に関心を寄せる若い世代の後押しとなり、次世代を担う外科医育成の一助となることを願って、今後も研究を継続してまいります。

最後に、本研究の遂行にあたりご協力・ご支援を賜りました教室の諸先生方、日頃よりご尽力いただいている手術室スタッフの皆様、日々医学教育に携わる方々に、この場を借りて深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

関連リンク/第79回手術手技研究会 <https://med-gakkai.jp/79jsast/>

なんでもご相談下さい。

医学堂書店

有限会社 医学堂書店
〒142-0064 東京都品川区旗の台1-11-9
TEL 03-3783-9774 FAX 03-3783-3156
Email igakudo@peridot.bforth.com

SMBC

スマホの口座

[オリーブ]

Olive

年会費永年無料

※Oliveフレキシブルペイ 一般カードの場合
くわしい内容はホームページをご確認ください

「石館・上野賞」を受賞

塚崎雅之教授（歯学部口腔生化学講座）が、令和7年度「石館・上野賞」を受賞した。石館・上野賞は、公益財団法人中外創薬科学財団が創設したものであり、生命科学研究・創薬科学研究あるいは臨床研究において独創的発見・発明を行い、かつそれを基盤として将来も画期的成果が期待される研究者を表彰するものである。塚崎教授は研究題目『腫瘍、自己免疫、感染に伴う組織破壊機構の解明』の業績が評価され、この度の受賞となった。11月28日、東京ステーションホテルで開催された表彰式にて、受賞記念講演を行った。



塚崎雅之教授（受賞記念講演の様子）

【塚崎雅之教授のコメント】

この度、「腫瘍、自己免疫、感染に伴う組織破壊機構の解明」という題目で、令和7年度「石館・上野賞」を受賞いたしました。本賞は45歳以下の医学研究者を対象とした国内最高峰の賞として知られており、過去の受賞者には医学領域のトップサイエンティストが名を連ねています。2025年11月28日に、東京ステーションホテルにて授賞式および記念講演会が開催され、東京フィルハーモニー交響楽団を擁する華やかな雰囲気の中、財団理事や選考委員をはじめ、本邦ライフサイエンス領域を代表する多くの研究者の先生方を前に、受賞記念講演を行う機会を頂きました。

選考の経緯を伺ったところ、Nature、Cell、Scienceなどのトップジャーナルに多数の論文を有する錚々たる候補者の中にあっても、私の研究は歯科医師としての発想に立脚した、他に類を見ない独創的な内容であり、その独自性と将来性を高く評価していただいたとのことでした。歯科の特殊性を徹底的に掘り下げることが、逆説的に普遍性へ至ると信じ努力してきた私の信念を認めていただけたように感じ、大変嬉しく思いました。

研究領域とは、海に浮かぶ島のようなものだと思います。そこ

から深く潜れば潜るほど、見上げたときにそれぞれの島の距離が分からなくなるように、自身の専門領域を真っ直ぐに突き詰めていくことでこそ、他分野にも訴えかけるブレイクスルーが生まれるのだと信じています。私自身もまだ道半ばではありますが、さらに深くサイエンスの海に潜り、新たな景色を探し続けていきたいと思っています。

最後に、大学院時代から独立に至るまでご指導くださいました高柳広客員教授、共に研究に取り組んでくれた学生・ポストドクターの皆様、昭和医科大学にて独立後、研究室を支えてくださっているスタッフの皆様、そして数多くの共同研究者の皆様に、心より感謝申し上げます。本賞を励みに、今後も一層精進してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

関連リンク／公益財団法人中外創薬科学財団「石館・上野賞」 <https://c-finds.com/business/reward/>

仮想解剖実習台「Anatomage Table」の教育研究成果が医学専門誌に掲載

吉川輝准教授（保健医療学研究科）らの研究チームは、仮想解剖実習台「Anatomage Table（アナトマージテーブル）」を活用した解剖生理学の教育方略に関する研究成果を、国際的な医学専門誌*Frontiers in Medicine*に発表した。「Anatomage Table」は、最先端の3D技術を用いて人体の構造と機能を精緻に再現するバーチャル解剖システムである。世界的にも本システムを用いた教育研究報告は約20報にとどまり、国内での導入機関も限られていることから、効果的な教育方略の確立が求められている。本教育研究では、リハビリテーション学科2年生を対象に神経生理学教育へ本システムを導入し、学生の学修行動や学びの質を調査した。その結果、学生自身が3Dモデルを操作し構造を描出してレポートを作成することは、理解促進に有効であり、クラスメイトとの協働課題は学修意欲を高め、アクティブラーニングを促進することが明らかになった。一方で、新しいテクノロジーの活用には、使用方法と学修目的を丁寧に説明することが重要であることも示された。本学では、2026年4月より富士吉田校舎に本システムを導入し、全学部の1年次学生が学ぶ環境を整備する。医系総合大学として、先端技術を活用した医学教育のさらなる発展を目指していく。



吉川輝准教授とAnatomage Table

【吉川輝准教授のコメント】

この度、本学の教育方略に関する教育研究成果が医学専門誌に掲載され、幅広く発信できることを大変喜ばしく思います。

私たちは、将来の優れた医療人を養成すべく日々の教育に取り組んでおります。現在、医療が高度化する中、その高度医療を担う学生教育も日々進化しています。そこで本学では、最新のテクノロジーを搭載した仮想解剖実習台「Anatomage Table」を導入し、学生教育に活かしてまいりました。

このテクノロジーを用いた教育方略の実践で明らかになった効果の一つは、知識の深い理解はもちろん、仲間と協働して学修するアクティブラーニングの促進でした。

今後はこの最先端のテクノロジーを駆使した教育を4学部へと展開していく予定とのことですので、より良い教育を学生へ提供

できるよう継続的に努力してまいります。

掲載誌／*Frontiers in Medicine (Healthcare Professions Education)*

論文名／理学療法士・作業療法士を目指す学生に対するアナトマージテーブルを用いた具体的教育方略の検討 Specific educational strategies using the Anatomage table for physical and occupational therapy students: a questionnaire-based survey

著者／Akira Yoshikawa, Ryo Takagi, Megumi Enokida

DOI／10.3389/fmed.2025.1615890

関連リンク／「仮想解剖実習台 Anatomage Table を活用した解剖学・生理学の新たな教育方略の紹介」モダンメディア 70(5)、7-20(2024年7月) https://www.eiken.co.jp/uploads/modern_media/literature/202405_70_P7-20.pdf

日本口腔外科学会総会・学術大会 最優秀口演発表賞

演題名 「レポーターiPS細胞によるヒト口腔上皮の分化誘導と唾液腺オルガノイド形成への応用」

受賞者 中島和希さん（歯学研究科顎顔面口腔外科学分野4年）

日程：2025年11月14日～16日：福岡国際会議場・福岡サ
場所：ンパレス



左から、大場誠悟教授、中島和希さん

日本調剤

全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社（本社：東京都千代田区丸の内、東証プライム市場上場）は、全国47都道府県で700以上の調剤薬局を展開している企業です。

昭友商事は
皆様をあらゆる面でサポートし、
貢献いたします。

(03) 3784-8280

昭和医科大学オリジナル商品の販売

NLローソン・タリーズコーヒー運営

各種旅行・イベント手配業務

アウトソーシングサービス ほか

昭友商事株式会社 〒142-0064
品川区旗の台1-8-16



— 生協は学園生活のパートナーです —



昭和医科大学生生活協同組合

旗の台：3788-2322（内線）8268 アミ：3785-9729（内線）8369
吉田：0555-23-8505 洗足：3787-4432 横浜：045-985-9624

幅広い分野での協力を通じて資質と能力の向上を 聖園女学院と包括連携協定を締結

9月12日、上田邦枝教授（助産学専攻科）が、本学の包括連携協定校である聖園女学院中学校・高等学校で出張講演を実施した。

上田教授は「生命と性の健康教育 愛といのち」と題した講演を行い、高校1年生が参加した。

講演会では、妊婦体験ジャケットや赤ちゃん人形に触れるなどの体験を通して、愛といのちについての説明や、青年期における

心と身体の成長に伴って起こり得る課題も紹介され、生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていた。

この講演会は、2025年1月27日に締結された両校の包括連携協定に基づく高大連携強化の一環として実施された。今後も両校は、様々な相互交流を通じて、高大連携を強めていく。



当日の様子

文教大学付属中学校・高等学校で 保護者向け講演会を実施

10月4日、尾形佑香講師（保健医療学部看護学科）が、本学の包括連携協定校である文教大学付属中学校・高等学校にて保護者向けに「思春期のメンタルヘルス」と題して講演を行い、高校1年生の保護者約70名が参加した。

尾形講師は、思春期の子どものメンタルヘルスにおける様々な問題とその背景、親が子どものメンタルヘルスを理解するヒントや高校生の進路選択において必要となる自己選択・自己決定につ

いての寄り添い方について説明を行い、参加した保護者の方々はメモを取るなど、熱心に聞き入っていた。

この講演は、2024年12月13日に締結された両校の包括連携協定に基づく中高大連携強化の一環として実施した。今後も両校は、様々な相互交流を通じて、連携を強めていく。



当日の様子

香蘭女学校にて出張授業を実施 自分の身体と向き合う大切さをテーマに

11月6日、肥田典子教授（薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門）が、本学の包括連携協定校である香蘭女学校にて、高等科2年生約170名を対象に「自分の体を守るセルフケアとトラブル予防のヒント」と題した出張授業を行った。

肥田教授は「PMSの身体変化と薬学ケア」、「性感染症のリスクと予防」、「違法薬物・薬物乱用のリスク」の3つのテーマを取り上げ、身近な事例を交えながら自分の体と向き合う大切さを伝

えました。生徒たちはメモを取りながら熱心に耳を傾けていた。

この講演会は、2025年10月30日に締結された包括連携協定に基づく高大連携推進の一環として開催されたもの。今後も両校は、多様な相互交流を通じて連携を一層強化していく。



当日の様子

日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 本学のチーム医療教育で特別賞

本学の卒業生・在学生在を筆頭演者とする6グループが、第18回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会（10月26日：昭和医科大学上條記念館）にて昭和医科大学のチーム医療教育に関するポスター発表を行い、それぞれ特別賞を受賞した。

各受賞グループの筆頭演者と受賞演題は以下のとおり

筆頭演者	演題名
青木誠太郎さん (横浜市北部病院統括薬剤部/2025年昭和大学卒業)	『福島県楡葉町における学部連携地域医療実習報告② ～医療人になった今、実習を振り返って感じること～』
和田功さん(医学部6年)	『福島県楡葉町における学部連携地域医療実習報告① ～医・薬・保健医療学部の学生が連携した実習で得られた学び～』
佐藤良祐さん(医学部5年)	『昭和医科大学の段階的なチーム医療教育PBL/TBLによる学生の意識の変化』
近藤まこさん(歯学部4年)	『地域歯科医療を体験して見えた将来像～地域連携歯科医療実習I～』
梅本才輝さん(薬学部6年)	『「家で見る」を支えるチームの形 ～診療・歯科・看護が一体となったクリニックでの学部連携地域医療実習報告～』
池庭舞さん(看護専門学校2年)	『多職種連携を見据えた医学生・看護専門学生合同PBLにおける工程・属性別意識変容と役割理解 ～社会人経験・自由記述・地域連携の視点から～』

関連リンク／第18回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 <https://society.main.jp/jaipe18/>



記念撮影

世界的研究力の指標となるScholarGPSで Top Scholar（トップクラスの学識者）に認定

山岸昌一教授（医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学部門）が、アメリカのMeta Analytics LLCが運営する学術分析プラットフォーム「ScholarGPS」において、世界中の研究者の上位0.05%にランクインし、2025年のTop Scholarに認定された。ScholarGPSは、2億件以上の学術論文や書籍、特許などを対象に、研究者や研究機関の影響力を可視化・数値化する評価プラットフォームで、世界的な研究力の指標として活用されている。山岸教授は、これまでの出版記録や研究のインパクト、学術的貢献の質などが評価され、「終末糖化産物（AGE）」分野で世界第2位、「糖尿病」の分野で日本第5位（65歳以下では第1位）に選出された。



山岸昌一教授

【山岸昌一教授のコメント】

この度、長年に渡り、携わって参りました「糖尿病と老化に関する基礎的かつ臨床的研究」が国際的に評価されることとなり、大変光栄に感じております。これもひとえに、昭和医科大学の諸先生方や多くの共同研究施設の先生方のご指導とご支援の賜物と存じます。誠にありがとうございました。今後も糖尿病や老年病を抱えた患者さんの診療に少しでも貢献できるよう、さらに精進を続

けていくつもりでおります。いつの日か、糖尿病の合併症が完全に制御され、多くの方々の健康寿命が飛躍的に延伸することを夢見て、日々、努力を積み重ねていく所存でございます。

関連リンク／ScholarGPS 2025年度優秀研究員プロフィール <https://scholargps.com/scholars/20352712026797/sho-ichi-yamagishi>

私たちが富士吉田で学んだこと、感じたこと



ボランティア活動を通して

医学部
木村 彩美



富士吉田での約10か月間の生活の中で、私は地域のボランティア活動に参加し、年代や背景の異なる人たちとの関わり方を学びました。

富士吉田キャンパス近くの「赤い屋根の家」では、子ども食堂の手伝いに加えて、体育館で一緒に体を動かしたり、遊んだりしながら交流しました。はじめは子どもたちとの距離感が戸惑いましたが、継続して関わる中で少しずつ心を開いてくれるようになり、信頼関係の重要性を実感しました。また、近くの障がい者施設のお祭りでの活動では、障がいのある方々の思いや生活に触れ、障がい者支援の在り方について考える貴重な機会となりました。

これらの活動を通して、子どもや障がい者だけでなく、その保護者や関係者の方々とも関わり、多様な価値観を知ることができました。ここで得た経験を、今後医療人として地域に寄り添う姿勢につなげていきたいと思っています。



最後までやり抜いた翠昭祭

歯学部
北川 美雨



私は、6月に行われた翠昭祭で、物品管理部門の副部門長として参加しました。物品の準備や管理に加え、審判などの当日の運営マニュアル作成などにも関わりました。大学入学後、初めての大きな行事であり、新しく出会った友人たちと協力して進めることに難しさを感じる場面もありましたが、何度も話し合いを重ね、連絡を取り合いながら準備を進めました。夜遅くまで作業を進めたのも今では良い思い出です。本番は大きなミスや怪我もなく無事に終わり、最後までやり切ったという達成感を強く感じました。大変だった分、終わったときの充実感も大きく、寮生活の中で最も印象に残る行事となりました。

最後までやり切れたのは、多くの方々の支えがあったからです。心より感謝申し上げます。



寮祭で得た宝物

薬学部
野村 はな



11月に開催された寮祭では、擬設部門委員として携わらせていただきました。当日を迎えるまでの資料作成、当日の模擬店出店者に対する指示出しなど大変なことばかりでしたが、無事に一日を終えることができた時の達成感はい自分にとって一番の大きな経験になりました。また、友人と一緒に模擬店を出店することになり、当日に向けて準備を進めていく中で、寮生活だからこそできた夜遅くまでの話し合いや装飾準備、試食をしたのも思い出です。寮祭には前夜祭、後夜祭があり模擬店のみでは成り立たないイベントに対して部門委員という立場で参加して良いものを作れたことはこれからの自信に繋がりました。ここで得た自信を糧にこれからの人生を生きていきたいと思っています。



大切な友人と出会えた寮生活

保健医療学部
看護学科
大石 李香



不安と期待と共に始まった寮生活は、想像以上に楽しく、あっという間の10か月でした。UNOや恋バナ、お菓子パーティーをして夜中まで盛り上がったこと、足湯に入りながらアイスを食べたこと、コンパの友人と一緒に誕生日会をしたことは寮生活だからこそできた思い出です。また、テスト勉強をする中で分からないことがあったときに、周りの友人をすぐに頼れることや、友人の頑張る姿に刺激を受ける環境は、私にとって勉強を頑張るモチベーションになりました。楽しいときも、辛いときも、いつもそばにいて支えてくれる友人がいたからこそ充実した寮生活になりました。ここで得たかけがえのない経験と友人との出会いを、一生の宝物として大切にしていきたいです。



ボランティア活動での学び

保健医療学部
リハビリテーション学科
理学療法専攻
海江田 美咲子



私は、地域の小学生や中学生を対象に、放課後に課題や学習を教えるボランティア活動に参加しました。この活動は、両親が共働きで家庭での学習支援が難しい子どもや、コミュニケーションが苦手な子どもにとって、安心して人と関わることのできる大切な場であり、地域にとって非常に必要な取り組みであると感じました。

また、活動を通して、学年に応じた教え方を工夫することや、一人ひとり異なる理解度を把握し、それに合わせて試行錯誤しながら指導することの難しさを実感しました。このボランティア活動は、将来、医療人として働く私たちに求められるコミュニケーション力や、相手に寄り添う姿勢を養うことができると同時に、地域の子どもの力になれる喜びを感じられる、非常に貴重な経験となりました。



寮生活と実習で育まれたチーム医療の学び

保健医療学部
リハビリテーション学科
作業療法専攻
梅木 莉子



富士吉田での生活は、医療人としての学びを実践の中で深める貴重な機会となりました。実習では専門的な知識や技術だけでなく、チーム医療の重要性を強く実感しました。本学はチーム医療に特化した大学であり、日頃から他者と協力して学ぶ環境が整っています。寮生活では、同室で勉強に励む人の姿を見ると自分も頑張ろうと感じ、仲間と支え合いながら学習に取り組むことができました。また、毎回異なるメンバーで行うグループワークでは、多様な考え方に触れ、意見を共有し、協働する力を養うことができました。これらの経験は実習現場でも活かされ、将来につながる貴重な学びとなりました。今後も仲間と共に学びを深め、患者さんに寄り添える医療人を目指して努力していきたいと思っています。

1月23日、富士吉田スクエアガーデンにて退寮式を執り行い、医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部在籍する1学年604名が10ヶ月におよぶ寮生活に別れを告げた。小川良雄教育部長挨拶に続き、中央委員長の吉田葵さん(医学部)から寮生活を支えてくれた職員・寮監、そしてともに過ごした学生たちに感謝が述べられた。その後、スチューデントインストラクターや学外活動で優秀な成績を収めた学生5名に小川教育部長・山本雅人学生部長から表彰状が授与された。寮生活を支えてくれた赤松寮・白樺寮・すみれ寮・百合寮の寮監には、それぞれの寮長・副寮長から感謝の言葉と記念品が贈られた。最後に、職員が制作した寮生活の思い出を振り返る記念動画が上映され、会場は感動に包まれた。



令和8年度入学試験

一般選抜入試（I期）、 大学入学共通テスト利用入試結果



令和8年度歯学部・薬学部・保健医療学部の一般選抜入試（I期）および大学入学共通テスト利用入試（面接試験）が、2月5日に試験場（五反田TOCビル）で行われた。また、医学部一般選抜入試（I期）および医学部地域枠選抜入試の一次試験は2月6日に同試験場で、二次試験（面接試験）は2月14日と15日の両日、旗の台キャンパスで実施された。詳細は表のとおり。

一般選抜入試（I期） 令和8年度結果

令和8年2月17日時点

学部・学科・専攻	募集人員	試験日	志願者数	合格者数
医学部	76		2,720	192
新潟県	7		88	7
静岡県	8	一次 令和8年2月6日(金)	192	8
茨城県	4	二次 令和8年2月14日(土)または15日(日)	51	4
山梨県	2		13	1
長野県	2		40	2
薬学部(医学部併願)	4		97	18
歯学部	42		401	78
薬学部	95		251	148
看護学科	30		281	60
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	13	令和8年2月5日(木)	67	26
リハビリテーション学科 作業療法学専攻	5		13	8
リハビリテーション学科 作業療法学専攻 (第二希望併願)	若干名		9	6

大学入学共通テスト利用入試 令和8年度結果

令和8年2月11日時点

学部・学科・専攻	募集人員	試験日	志願者数	合格者数
歯学部	5		163	20
薬学部	5		136	36
看護学科	4	大学入学共通テスト 令和8年1月17日(土)・18日(日)	136	4
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	2	面接試験 令和8年2月5日(木)	50	14
リハビリテーション学科 作業療法学専攻	1		18	10

令和8年度 看護専門学校入学試験結果

昭和医科大学附属看護専門学校令和8年度一般選抜入学試験I期を実施し、合格者が決定した。詳細は表のとおり。

一般選抜入学試験I期（試験日：令和8年1月12日）

年度	令和8年度	令和7年度
募集人員	30	50
志願者数	男 10 女 88 計 98	男 6 女 96 計 102
合格者数	男 5 女 47 計 52	男 5 女 68 計 73

学内会議報告



就任のお知らせ（令和7年12月9日 理事会承認）

医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座担当 教授（員外）
[勤務地：昭和医科大学病院耳鼻咽喉科]



濱田 昌史

東海大学医学部耳鼻咽喉科 教授
任命日：令和8年4月1日

江東豊洲病院内科系診療センター精神科 診療科長



長井 友子

医学部精神医学講座担当 准教授
[勤務地：江東豊洲病院内科系診療センター精神科]
任命日：令和7年12月9日

就任のお知らせ（令和8年1月13日 理事会承認）

医学部脳神経外科学講座担当 教授
[勤務地：江東豊洲病院脳血管センター脳神経外科]



杉山 達也

医学部脳神経外科学講座担当 准教授
[勤務地：江東豊洲病院脳血管センター脳神経外科]
任命日：令和8年4月1日

理事会関係

◆創立100周年学校債（第二期）の発行について

【学校債券概要】

目 標 額	10億円
債 券 額 面	1口1千万円 1口以上
借 入 期 間	満5年間
利 息	年利0.45%
開 始 日	令和7年12月1日より

◆まごころ学校債（第二期）の発行について

【学校債券概要】

目 標 額	10億円
債 券 額 面	1口1千万円 1口以上
借 入 期 間	満5年間 年利0.48%
お よ び 利 息	満3年間 年利0.32%
開 始 日	令和7年12月1日より

◆令和8年度法人・大学・病院活性化推進委員会プロジェクトについて

本学は、理事会のもとに法人・大学活性化推進委員会および病院活性化推進委員会を平成19年から設置している。各委員会で

はプロジェクトを立ち上げ、活発な議論を重ね、改革に向けた答申を作成する。令和8年度のプロジェクトは以下のとおりとすることが決定した。

法人・大学活性化推進委員会

- ①ナースプラクティショナー（NP）の病院配置と養成課程設置検討プロジェクト
- ②医師国家試験合格率向上検討プロジェクト～厳正な進級制度の構築～
- ③鷺沼移転後の旗の台キャンパスの配置計画作成検討プロジェクト

病院活性化推進委員会

- ①烏山病院運営改善検討プロジェクト
- ②土曜日終日化検証プロジェクト～完全開院を目指して～
- ③手術コントロール室運用検証プロジェクト

学務関係

◆歯学部組織変更について

【部門の廃止】 歯科保存学講座総合診療歯科学部部門

【廃止時期】 令和8年3月31日

【部門の新設】 口腔病態診断科学講座口腔再生医学部部門

【勤務地】 口腔病態診断科学講座口腔再生医学部部門（旗の台校舎）臨床病理診断科（歯科病院）※兼任

【理由】 創発的研究支援事業申請のため

【新設時期】 令和8年4月1日

【英語名称】 Department of Oral Diagnostic Sciences, Division of Regenerative Dentistry

◆薬学部 基礎医療薬学講座生体分子機能修飾学部設置について

【講座部門名】 基礎医療薬学講座生体分子機能修飾学部部門

【英語名称】 Department of Pharmacology, Toxicology and Therapeutics, Division of Molecular Adduct Biology

【設置日】 令和8年4月1日

◆「学生部長等選任規程」制定について

【制定趣旨】 富士吉田教育部において、初年次における指導担任による教員の負担軽減に繋げる役割を担うことを目的として、副学生部長を配置するため。

【施行日】 令和8年4月1日

i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

上條記念ミュージアム

【校名変更記念】企画展「旧昭和医科大学の頃」開催中！

大学の校名変更を記念して、第7回企画展「旧昭和医科大学の頃～戦後の制度改革を乗り越えた大学の発展史～」を開催中です。本展では、旧昭和医科大学時代（昭和21～39年・1946～1964年）に焦点をあて、大学設立に関する行政文書や大学施設増築に関わる図面などを展示し、専門学校から大学へと旗の台地域とともに発展してきた歴史を紹介しています。皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

【開館】

火曜日・金曜日

13:00～15:00（予約制）

【開催期間】

2025年10月3日（金）～

2026年6月30日（火）



いつも探しています！大学や病院の歴史資料

皆さまのご自宅や勤務先に、昭和医科大学の歴史に関する資料はございませんか。

資料は「上條記念ミュージアム」にて大切に保管・展示をさせていただきます。

これらの品々は「至誠一貫」の精神で歩んできた95余年に及ぶ昭和医科大学の歴史を後世に伝える貴重な資料となる可能性があります。皆さまからのご連絡をお待ちしております。

【お問い合わせ】 昭和医科大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



リカレントカレッジ事務室

昭和医科大学リカレントカレッジ特別企画開催決定！

2026年度で昭和医科大学リカレントカレッジは開講6年目となります。昨年度は春期・秋期で全43講座が開講し、年間535名の受講者を迎えることができました。今年度も、医学分野にとどまらず、様々なテーマの講座を開講し、多くの受講生の学びに貢献してまいります。

さて、この度、2026年度昭和医科大学リカレントカレッジ特別企画（夏）として、特別公開講座を開催する運びとなりました。写真家の中村征夫様をお招きし、ご講演をいただきます。リカレントカレッジ受講生・本学職員・本学学生は参加費無料となっておりますので、ぜひお問い合わせの上ご参加ください。

【講演テーマ】

「波のように生きる～海の写りが教えてくれる、あきらめない力～」

【日時】 2026年7月12日（日） 14:00～

【会場】 昭和医科大学上條記念館 上條ホール

【料金】 一般：2,000円（全席指定）

【チケット発売日】 2026年5月12日（火）

窓口 9:00～（きゅりあん、スクエア荏原、O美術館）

電話 10:00～ 03-5479-4140

…チケットセンターCURIA ※電話予約は座席選択不可

Web 9:00～ <https://www.shinagawa-culture.or.jp/>

…「しながわぶんか」で検索

なお、チケット販売の詳細についてはリカレントカレッジホームページをご確認下さい。

※リカレントカレッジ受講生・本学教職員・本学学生のお申込み方法については、学内情報共有基盤・配信メール等でお知らせします。

【講師略歴】

1945年秋田県出身。19歳のとき神奈川県真鶴町で水中写真を独学で始める。1977年東京湾にはじめて潜り、ヘドロの海で遅く生きる生きものに感動。以来、東京湾定点観測をライフワークとして取り組む。また、これまでの報道の現場の経験を生かし、さまざまなメディアを通して海の魅力や海をめぐる人々の営みを伝えている。

【主な著書と写真集】 ノンフィクション『全・東京湾』、写真集『海中顔面博覧会』（情報センター出版局）



写真家 中村 征夫氏
（撮影：白鳥真太郎）

リカレントカレッジ 2026年度春期プログラム受講生募集中

リカレントカレッジでは、2026年度春期プログラムの受講生を募集しています。定番の講座から新規開講講座まで多彩なプログラムを取り揃えております。今回は5月以降に開講する講座をご紹介します。資料請求・講座申込はリカレントカレッジホームページをご覧ください。

※定員に達し次第、受付を終了いたします。

【5月開講】 申込締切：4月20日（月）

プログラム名	講師（敬称略）
アクティブラーニングで学ぶ医療現場のDX	中村 明央
SMBCグループ金融経済教育セミナー	SMBC社員
心も身体もリラックス 癒しのケアとその効果～触れるケアを中心に～	田中 晶子
現役舞台女優が語る演劇論～舞台女優は何を考えた何を感じて演じているのか？～	白須 慶子
宇宙を覗く人類の目～星空から天文学へ～	内藤 誠一郎
思春期・成人期の発達障害～症状・診断から治療まで～	岩波 明
東京の庭園の魅力～歴史と美を愉しむ～	鈴木 誠
60歳になったら始めよう！姿勢・歩き方実践講座	岡山 知世
アニメが繋ぐ世界～アニメ聖地巡礼とファンの楽しみ方～	刑部 慶太郎
動きやすさを追求する！3日間実践講座～多関節のアプローチで膝の動きを変える～	岡山 知世
医療の『なぜ？』を解き明かす！その1～医師国家試験から見えてくる日本社会と健康～	小風 暁

【6月開講】 申込締切：5月20日（水）

プログラム名	講師（敬称略）
もうドラッグストアで迷わない！かゆみに効く市販薬・漢方薬の秘密	赤川 圭子
科学の力で真実を解き明かす！～城教授による捜査科学講義～	城 祐一郎
医療の『なぜ？』を解き明かす！その2～医師国家試験から見えてくる日本社会と健康～	小風 暁

【7月開講】 申込締切：6月20日（土）

プログラム名	講師（敬称略）
事件記者の眼～世間を騒がせた事件について取材を通じて裏から見ると…～	出口 修
レジリエンス～折れない心のつくりかた～	後藤 理英子
富士山や山麓の植物～ウォーキングしながら「野の花」を楽しむ～	谷亀 高広

【9月開講】 申込締切：8月20日（木）

プログラム名	講師（敬称略）
楽しく高める自然治癒力～セルフケアで免疫力アップ～	佐々木 晶子



講義風景

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

【お問い合わせ】 昭和医科大学リカレントカレッジ事務室

電話：03-3784-8143

メール：recurrent@ofc.showa-u.ac.jp



昭和医科大学医療振興財団

地域保健医療の実践と挑戦を顕彰 昭和上條医療賞・奨励賞受賞者決定

公益財団法人昭和医科大学医療振興財団（東京都品川区・理事長 山元俊憲）は、このほど2025年度の昭和上條医療賞と奨励賞の受賞者を発表し、授賞式が昭和医科大学上條記念館で執り行われた。

昭和医科大学医療振興財団は、国民の健康増進と医学・医療の発展に貢献するため設立された公益財団法人である。その事業の一つとして2014年度に創設した顕彰事業「昭和上條医療賞」は、地域保健医療の実践及び教育の分野において創造的かつ先駆的諸活動を行い、大きな成果を挙げた個人またはグループを顕彰しているものである。

また、今年度より新設された「昭和上條医療奨励賞」では、地域保健医療活動を立ち上げ医療振興を目指し、その成果が期待される個人またはグループを表彰する。

今年度の受賞者は次のとおり。

【第12回「昭和上條医療賞」受賞者】

多職種連携による地域医療の充実、医療人材養成の取組み

雨森 正記氏（滋賀家庭医療学センター 理事長、弓削メディカルクリニック 院長；滋賀県蒲生郡）

全職種が主役となって医療と介護の連携に取り組む

篠原 裕希氏（篠原湘南クリニックローパーホスピタル 理事長；神奈川県藤沢市）

医科歯科社会連携を通じた健口による健幸の実現

西田 互氏（にしだわたる 糖尿病内科 院長；愛媛県松山市）

【第1回「昭和上條医療奨励賞」受賞者】

共創型地域医療——地域とともに、医療をひらく

いとちプロジェクト 渡邊 聡子 氏（かしま病院 総合診療科 医長：
福島県いわき市）

高齢者独居肺がん患者に対応した周術期地域連携パス

RING in 函館 代表 上原 浩文 氏（函館五稜郭病院 呼吸器外科
診療部長：北海道函館市）

1 授賞式の様子 2 (左から)篠原 裕希氏、雨森 正記氏、西田 互氏 3 (左から)上原 浩文氏、渡邊 聡子氏

Webサイト 公益財団法人 昭和医科大学医療振興財団

URL : <https://showa-mf.jp/>

総務部

昭和医科大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年記念事業募金】

父母／中塚 滋 様

同窓／田崎 博之 様（医学部・33回生）、矢田 清身 様（医学部・42回生）、北野 新弓 様（医学部・50回生）、篠原 裕希 様（医学部・51回生）、長谷川 武久 様（医学部・62回生）、小出 薫 様（薬学部・3回生）

職員（50音順）／小川 良雄 様、上條 由美 様、倉口 秀美 様、小出 良平 様、酒井 均 様、佐々木 真 様、菅沼 岳史 様、鈴木 健司 様、田中 周一 様、田邊 聡 様、中西 孝子 様、水上 拓也 様
一般／オリンパス株式会社 様、カミマル株式会社 様、東洋熱工業株式会社 様、戸田建設株式会社 東京支店 様、三森 晋一 様、渡辺 政彦 様

【医学部への寄付】

同窓／田崎 博之 様（医学部・33回生）

【薬学部への寄付】

父母／岡野 彰文 様

【富士吉田教育部への寄付】

一般／渡辺 政彦 様

【昭和医科大学病院への寄付】

同窓／村田 謙治 様（医学部・41回生）

【昭和医科大学歯科病院への寄付】

一般／渡辺 政彦 様

【各クラブ・学生会への寄付】

父母／中村 圭輔 様

同窓／安斉 尚子 様（医学部・57回生）、佐藤 雅道 様（医学部・67回生）、飯島 堅太郎 様（医学部・79回生）、古田 和也 様（医学部・91回生）

職員／肥田 典子 様

【大学祭・寮祭等イベントへの寄付】

一般／渡辺 政彦 様

【病院建設・運営維持への寄付】

職員／尾頭 希代子 様

【校舎建設・運営維持への寄付】

同窓／新井 大輔 様（医学部 69回生）

一般／渡辺 政彦 様

※収納期間：2025年12月1日～2026年1月31日

※本学広報媒体への掲載に同意していただいた方のみといたします

今号の表紙写真

表紙は1月30日に行われた富士吉田キャンパス 新実習棟（2号館）の竣工式から。新実習棟は地上3階建てで、国内最大規模となる20台のアナトマージテーブルを備えた形態機能実習室や、より実践的な学修が可能な基礎看護実習室などを整備しています。今後も「初年次全寮制教育」を担う富士吉田キャンパスにおいて、学生の学びと生活環境を図ってまいります。



SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

昭和医科大学新聞 通巻第630号

vol. 21

April 2026 令和8年4月1日発行

[年6回発行]



学校法人 昭和医科大学

(03) 3784-8000
〒142-8555
東京都品川区旗の台1-5-8

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係

(03) 3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

配送停止住所変更

のご連絡は、こちらをお願いします。

【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)
(0555) 22-4403 (富士吉田)
(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026

! 個人情報の取扱いにご注意ください

昭和医科大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和医科大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。